

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Aの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。 →(1)(4)(5)(6)(8)(9)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラル アーツの素 養	2.専門性	3.自己を理 解し発展さ せる力	4.キャリア展 望を確立す る力	5.他者を理 解する姿勢	6.表現力	7.リーダー シップ	8.国際性	9.社会的実 践力
英語ディスカッション	必修	1	1クラス10名程度の学習環境で発言の機会を増やすことにより、スピーキングを向上させる。また、ディスカッションに必要な基本的表現を習得し、ディスカッションスキルが向上することで、自分の考えを適切な英語で述べる力を身につける。	◎				○	◎		◎	
英語ディベート	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、特定のテーマについて肯定側と否定側に分かれて議論することを通じて、論理的かつ批判的に考える力、情報を収集し活用する力、他者と建設的に議論する力、合理的な意思決定をする力を身につける。	◎				○	◎		◎	
英語リーディング&ライティング1・2	必修	1	読解スキルのトレーニングを行い、要約を書く活動も合わせて学ぶことにより、的確に読む習慣を身につける。また書くために読むという位置づけで読解活動を行うことで、基礎的な英語表現からパラグラフの書き方、簡単なエッセイ、リサーチペーパーの書き方を身につける。	◎				○			◎	
英語eラーニング	必修	1	PCを使ったリーディングとリスニングを中心に、自分のペースで学習を進め、自らの得手・不得手を確認しながら、自主的および継続的な英語学習の習慣を身につける。また、定期的なグループ活動により、主にビジネスの場面で求められる受信力と発信力を伸ばす。	◎				○			◎	
英語プレゼンテーション	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、プレゼンテーションの基本的なスキルの修得とともに、書き手の意図や文章の意味を正確に読み取る訓練を行い、読んだ内容についてプレゼンテーションができるようにする。	◎				○	◎		◎	
上級英語1(リーディング&ライティング)	必修	1	週2回の集中クラスで、よりアカデミックな内容を扱いながら、リーディング力とライティング力の両方をのばし、本格的なリサーチペーパーの書き方の基礎を修得する。	◎				○	○		◎	
上級英語2(プロジェクト英語)	必修	1	グループで設定したアカデミックな課題の達成に向けて情報収集、読解、データ収集やグループディスカッションを進め、グループメンバーと協力、協調しながら課題を完成させ、プレゼンテーションを行う。また春学期に習得したライティングスキルを応用して各個人がリサーチペーパーを書けるようになる。	◎				○	○		◎	
グローバル・コミュニケーション領域	自由	1~4	1年次必修科目(Discussion, Debate, Presentation, Reading & Writing)との継続性を持つ授業を通じて、それぞれの技能を伸ばし、各授業ごとに定められたCEFR水準を満たす。	◎				○	△		◎	△
グローバル・スタディーズ領域	自由	1~4	学部の専門分野に関連するテーマ、およびグローバル社会で重要なテーマを取り扱いながら、専門領域を英語で学ぶために各授業ごとに定められたCEFR水準を満たす英語力を身につける。	◎				○			◎	△
グローバル・キャリア領域	自由	2~4	卒業後グローバル社会で活躍するために必要な英語力を総合的に向上させ、各授業ごとに定められたCEFR水準を満たす。	◎			○	○	△		◎	△

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要なとされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
→(1)(3)(5)(6)(8)(9)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラル アーツの素 養	2.専門性	3.自己を理 解し発展さ せる力	4.キャリア展 望を確立す る力	5.他者を理 解する姿勢	6.表現力	7.リーダー シップ	8.国際性	9.社会的実 践力
ドイツ語1	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、一人一人のドイツ語での表現力(CEFR A1レベル)を養う。	◎		○		○	○		◎	
ドイツ語2	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、一人一人のドイツ語での表現力(CEFR A2レベル)を養う。	◎		○		○	○		◎	
ドイツ語A	必修	1	1クラス40名程度の学習環境で、ドイツ語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句を身につけ、CEFR A1レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるようになる。	◎		○		○			◎	
ドイツ語B	必修	1	1クラス40名程度の学習環境で、ドイツ語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句を身につけ、CEFR A2レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるようになる。	◎		○		○			◎	
留学準備領域	自由	1~4	協定校への留学に際して求められるB1レベルの語学力と現地で必要不可欠な素養を修得する。	◎		○		○			◎	
プロジェクト領域	自由	2~4	様々なプロジェクト活動や調査を通じて、必修授業で身につけた言語運用能力の向上をはかり、各授業ごとに設けられたCEFRの水準を満たす。	◎		△		○			◎	○
キャリア領域	自由	2~4	各言語特性に合わせて設置された科目の履修を通じて、卒業後幅広いキャリアで使用できる言語能力を伸ばす。	◎			△	○			◎	◎
アカデミック領域	自由	2~4	様々なトピックの学びを通じて、より高度な言語運用能力を獲得し、各授業ごとに定められたCEFR水準を満たす。	◎				○			◎	

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要な高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
→(1)(3)(5)(6)(8)(9)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラル アーツの素 養	2.専門性	3.自己を理 解し発展さ せる力	4.キャリア展 望を確立す る力	5.他者を理 解する姿勢	6.表現力	7.リーダー シップ	8.国際性	9.社会的実 践力
フランス語1	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、一人一人のフランス語での表現力(CEFR A1レベル)を養う。	◎		○		○	○		◎	
フランス語2	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、一人一人のフランス語での表現力(CEFR A2レベル)を養う。	◎		○		○	○		◎	
フランス語A	必修	1	1クラス40名程度の学習環境で、フランス語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句を身につけ、CEFR A1レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるようになる。	◎		○		○			◎	
フランス語B	必修	1	1クラス40名程度の学習環境で、フランス語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句を身につけ、CEFR A2レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるようになる。	◎		○		○			◎	
留学準備領域	自由	1~4	協定校への留学に際して求められるB1レベルの語学力と現地で必要不可欠な素養を修得する。	◎		○		○			◎	
プロジェクト領域	自由	2~4	様々なプロジェクト活動や調査を通じて、必修授業で身につけた言語運用能力の向上をはかり、各授業ごとに設けられたCEFRの水準を満たす。	◎		△		○			◎	○
キャリア領域	自由	2~4	各言語特性に合わせて設置された科目の履修を通じて、卒業後幅広いキャリアで使用できる言語能力を伸ばす。	◎			△	○			◎	◎
アカデミック領域	自由	2~4	様々なトピックの学びを通じて、より高度な言語運用能力を獲得し、各授業ごとに定められたCEFR水準を満たす。	◎				○			◎	

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要なとされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
→(1)(3)(5)(6)(8)(9)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラル アーツの素 養	2.専門性	3.自己を理 解し発展さ せる力	4.キャリア展 望を確立す る力	5.他者を理 解する姿勢	6.表現力	7.リーダー シップ	8.国際性	9.社会的実 践力
スペイン語1	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、一人一人のスペイン語での表現力(CEFR A1レベル)を養う。	◎		○		○	○		◎	
スペイン語2	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、一人一人のスペイン語での表現力(CEFR A2レベル)を養う。	◎		○		○	○		◎	
スペイン語A	必修	1	1クラス40名程度の学習環境で、スペイン語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句を身につけ、CEFR A1レベル程度のテキストを読み解し、聞き取れるようになる。	◎		○		○			◎	
スペイン語B	必修	1	1クラス40名程度の学習環境で、スペイン語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句を身につけ、CEFR A2レベル程度のテキストを読み解し、聞き取れるようになる。	◎		○		○			◎	
留学準備領域	自由	1~4	協定校への留学に際して求められるB1レベルの語学力と現地で必要不可欠な素養を修得する。	◎		○		○			◎	
プロジェクト領域	自由	2~4	様々なプロジェクト活動や調査を通じて、必修授業で身につけた言語運用能力の向上をはかり、各授業ごとに設けられたCEFRの水準を満たす。	◎		△		○			◎	○
キャリア領域	自由	2~4	各言語特性に合わせて設置された科目の履修を通じて、卒業後幅広いキャリアで使用できる言語能力を伸ばす。	◎			△	○			◎	◎
アカデミック領域	自由	2~4	様々なトピックの学びを通じて、より高度な言語運用能力を獲得し、各授業ごとに定められたCEFR水準を満たす。	◎				○			◎	

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要なとされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
→(1)(3)(5)(6)(8)(9)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラル アーツの素 養	2.専門性	3.自己を理 解し発展さ せる力	4.キャリア展 望を確立す る力	5.他者を理 解する姿勢	6.表現力	7.リーダー シップ	8.国際性	9.社会的実 践力
中国語1	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、一人一人の中国語での表現力(CEFR A1レベル)を養う。	◎		○		○	○		◎	
中国語2	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、一人一人の中国語での表現力(CEFR A2レベル)を養う。	◎		○		○	○		◎	
中国語A	必修	1	1クラス40名程度の学習環境で、中国語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句を身につけ、CEFR A1レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるようになる。	◎		○		○			◎	
中国語B	必修	1	1クラス40名程度の学習環境で、中国語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句を身につけ、CEFR A2レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるようになる。	◎		○		○			◎	
留学準備領域	自由	1~4	協定校への留学に際して求められるB1レベルの語学力と現地で必要不可欠な素養を修得する。	◎		○		○			◎	
プロジェクト領域	自由	2~4	様々なプロジェクト活動や調査を通じて、必修授業で身につけた言語運用能力の向上をはかり、各授業ごとに設けられたCEFRの水準を満たす。	◎		△		○			◎	○
キャリア領域	自由	2~4	各言語特性に合わせて設置された科目の履修を通じて、卒業後幅広いキャリアで使用できる言語能力を伸ばす。	◎			△	○			◎	◎
アカデミック領域	自由	2~4	様々なトピックの学びを通じて、より高度な言語運用能力を獲得し、各授業ごとに定められたCEFR水準を満たす。	◎				○			◎	

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
→(1)(3)(5)(6)(8)(9)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラル アーツの素 養	2.専門性	3.自己を理 解し発展さ せる力	4.キャリア展 望を確立す る力	5.他者を理 解する姿勢	6.表現力	7.リーダー シップ	8.国際性	9.社会的実 践力
朝鮮語1	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、一人一人の朝鮮語での表現力(CEFR A1レベル)を養う。	◎		○		○	○		◎	
朝鮮語2	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、一人一人の朝鮮語での表現力(CEFR A2レベル)を養う。	◎		○		○	○		◎	
朝鮮語A	必修	1	1クラス40名程度の学習環境で、朝鮮語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句を身につけ、CEFR A1レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるようになる。	◎		○		○			◎	
朝鮮語B	必修	1	1クラス40名程度の学習環境で、朝鮮語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句を身につけ、CEFR A2レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるようになる。	◎		○		○			◎	
留学準備領域	自由	1~4	協定校への留学に際して求められるB1レベルの語学力と現地が必要不可欠な素養を修得する。	◎		○		○			◎	
プロジェクト領域	自由	2~4	様々なプロジェクト活動や調査を通じて、必修授業で身につけた言語運用能力の向上をはかり、各授業ごとに設けられたCEFRの水準を満たす。	◎		△		○			◎	○
キャリア領域	自由	2~4	各言語特性に合わせて設置された科目の履修を通じて、卒業後幅広いキャリアで使用できる言語能力を伸ばす。	◎			△	○			◎	◎
アカデミック領域	自由	2~4	様々なトピックの学びを通じて、より高度な言語運用能力を獲得し、各授業ごとに定められたCEFR水準を満たす。	◎				○			◎	

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要なとされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
→(1)(3)(5)(6)(8)(9)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラル アーツの素 養	2.専門性	3.自己を理 解し発展さ せる力	4.キャリア展 望を確立す る力	5.他者を理 解する姿勢	6.表現力	7.リーダー シップ	8.国際性	9.社会的実 践力
ロシア語1	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、一人一人のロシア語での表現力(CEFR A1レベル)を養う。	◎		○		○	○		◎	
ロシア語2	必修	1	1クラス20名程度の学習環境で、一人一人のロシア語での表現力(CEFR A2レベル)を養う。	◎		○		○	○		◎	
ロシア語A	必修	1	1クラス40名程度の学習環境で、ロシア語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句を身につけ、CEFR A1レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるようになる。	◎		○		○			◎	
ロシア語B	必修	1	1クラス40名程度の学習環境で、ロシア語の文法的な知識、初歩的な語彙や語句を身につけ、CEFR A2レベル程度のテキストを読解し、聞き取れるようになる。	◎		○		○			◎	
留学準備領域	自由	1~4	協定校への留学に際して求められるB1レベルの語学力と現地で必要不可欠な素養を修得する。	◎		○		○			◎	
プロジェクト領域	自由	2~4	様々なプロジェクト活動や調査を通じて、必修授業で身につけた言語運用能力の向上をはかり、各授業ごとに設けられたCEFRの水準を満たす。	◎		△		○			◎	○
キャリア領域	自由	2~4	各言語特性に合わせて設置された科目の履修を通じて、卒業後幅広いキャリアで使用できる言語能力を伸ばす。	◎			△	○			◎	◎
アカデミック領域	自由	2~4	様々なトピックの学びを通じて、より高度な言語運用能力を獲得し、各授業ごとに定められたCEFR水準を満たす。	◎				○			◎	

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要な高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
→(1)(3)(5)(6)(8)(9)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラル アーツの素 養	2.専門性	3.自己を理 解し発展さ せる力	4.キャリア展 望を確立す る力	5.他者を理 解する姿勢	6.表現力	7.リーダー シップ	8.国際性	9.社会的実 践力
ポルトガル語(ブラジル)1	自由	2~4	初學者や初歩的な文法を学習した人が日常会話レベルの文法を学び、読解、会話に運用できるようになる。	◎				○			◎	○
ポルトガル語(ブラジル)2	自由	2~4	初學者や初歩的な文法を学習した人が継続的に日常会話レベルの文法を学び、読解、簡単な日常会話できるようになる。	◎				○			◎	○
日本手話入門1	自由	2~4	初めて手話に出会う学生が異文化コミュニケーションの一つとして手話を学ぶと共に、ろう文化の概要について理解できるようになる。手話で簡単な日常会話ができるようになる。	◎				○	○			○
日本手話入門2	自由	2~4	豊かな表現力を持つ手話を通してコミュニケーション能力を磨くと共に、ろう者の社会的背景を学ぶ。また、手話を読み取る力を養う。	◎				○	○			○
日本手話中級1	自由	2~4	基礎を習得しを終えた学生を対象が手話文法に基づいた豊かな日本手話で、クラスメートと自由なコミュニケーションを図れるようになる。	◎				○	○			○
日本手話中級2	自由	2~4	中級から上級の力を持つ学生が、手話の特徴を活用し豊かな日本手話で自分の意見を表現し、相手にきちんとメッセージを伝えることができるようになる。	◎				○	○			○
入門インドネシア語	自由	2~4	インドネシア語の文学・発音・基礎文法を中心に学習し、基本的な語彙や表現を身に付け、初歩的なコミュニケーションができるようになる。また、インドネシア語圏の文化に触れることを通して、複文化的視点を会得できるようになる。	◎				○			◎	○
入門タイ語	自由	2~4	タイ語の文学・発音・基礎文法を中心に学習し、基本的な語彙や表現を身に付け、初歩的なコミュニケーションができるようになる。また、タイ語圏の文化に触れることを通して、複文化的視点を会得できるようになる。	◎				○			◎	○
入門タガログ語	自由	2~4	タガログ語の文学・発音・基礎文法を中心に学習し、基本的な語彙や表現を身に付け、初歩的なコミュニケーションができるようになる。また、タガログ語圏の文化に触れることを通して、複文化的視点を会得できるようになる。	◎				○			◎	○
入門ベトナム語	自由	2~4	ベトナム語の文学・発音・基礎文法を中心に学習し、基本的な語彙や表現を身に付け、初歩的なコミュニケーションができるようになる。また、ベトナム語圏の文化に触れることを通して、複文化的視点を会得できるようになる。	◎				○			◎	○

カリキュラム・マップ

全学共通科目の教育目的

人類が過去から現在に至るまで築き上げてきた学術的知見を、広くかつ多様な観点から学習させるとともに、所属学部において専攻する学問領域の豊かな成果と交錯させながら、コミュニケーション能力や異文化への深い理解と世界に通用する知性を涵養し、自らの力で新たな課題を探究し、解決することができる学生を育成する。

学修成果

言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多角的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
→(1)(3)(4)(5)(6)(8)(9)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

全学共通科目のカリキュラム				全学共通科目の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1.リベラル アーツの素 養	2.専門性	3.自己を理 解し発展さ せる力	4.キャリア展 望を確立す る力	5.他者を理 解する姿勢	6.表現力	7.リーダー シップ	8.国際性	9.社会的実 践力
大学生の日本語A	必修	1	大学における学習、生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。聴く・話す活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い、内容理解とともに、ディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。	◎				○	◎		◎	
大学生の日本語B	必修	1	大学における学習、生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。聴く・話す活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い、内容理解とともに、ディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。	◎				○	◎		◎	
大学生の日本語C	必修	1	大学における学習、生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。聴く・話す活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い、内容理解とともに、ディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。	◎				○	◎		◎	
大学生の日本語D	必修	1	大学における学習、生活に必要な日本語の基本的スキルの獲得を目指す。聴く・話す活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い、内容理解とともに、ディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。	◎				○	◎		◎	
日本の社会と文化A~C	自由	1~4	社会問題、芸能文化など日本の文化・社会に関する様々なトピックをとりあげ、それについて理解を深めながら、日本語による受発信力をつける。	◎				○			◎	
社会の中の日本語A・B	自由	1~4	流行語、擬音語・擬態語など、社会言語学的側面から日本語についての理解を深めるとともに、日本語による受発信力をつける。	◎				○			◎	
論文読解の技法	自由	1~4	様々な分野の学術論文を読み、日本語の学術論文の構成をつかむとともに、論文で用いられる様々な表現を理解することに重点を置きながら、日本語による受発信力をつける。	◎				○			◎	
論文作成の技法	自由	1~4	卒業論文や学術論文など、レポートよりも長く、学術的な論文の書き方について学ぶことに重点を置きながら、日本語による受発信力をつける。	◎				○			◎	
キャリアの日本語A	自由	1~4	日本の就職活動の全体の流れや要点を理解するとともに、エントリーシートの書き方(効果的な構成、適切な文体や語彙等)、面接で求められる日本語(適切な応対、マナー)など、実質的な日本語スキルの獲得を目指す。	◎		◎	◎	○			◎	○
キャリアの日本語B	自由	1~4	就職試験で出題される日本語関連項目(敬語や四字熟語、慣用表現等)について学びながら、日本で行われる就職試験を理解する。また数多くの問題に触れることによって日本語や日本文化・社会についての知識を増やす。	◎		◎	◎	○			◎	○
ビジネスのための口頭運用力A	自由	1~4	日本語の談話の特徴について理解を深めるとともに、敬語や待遇表現など、日本企業で働く際に必要となる口頭運用力を身につける。	◎			◎	○	△		◎	○
ビジネスのための口頭運用力B	自由	1~4	ビジネスで必要とされる談話レベルの日本語力を、ソリューション・デザイン型活動を通して身につけ、より高度なビジネス日本語運用能力の獲得を目指すとともに、日本でのビジネスの進め方への理解を深める。	◎			◎	○	△		◎	○
ビジネスメールと文書	自由	1~4	日本語の書き言葉によるコミュニケーションについての理解を深めながら、ビジネスメール、報告書、依頼状などの様々なビジネス文書の読み方、書き方について学び、使えるようになる。	◎			◎	○	△		◎	○